

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	219310050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風(東)		
所在地	岐阜県可児市谷戸68番		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2193100050-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよ風は、小規模特養と小規模多機能の施設が隣接しており、毎年3施設合同で夏祭りや、認知症カフェ(カフェトライアングル)を開催しています。職員・利用者様・ご家族様の相互交流や、地域の方々にも気軽に交流して頂けるような関係づくりに努めています。地元自治会とは、防災協定を締結しており、地域の防災訓練や、防災会議などに参加して、相互に支えあう体制を取り入れています。また、母体が医療法人である為、利用者様の健康管理への助言や、適切な処置などを素早く受けることが出来ます。その中で、私達は、利用者様が住み慣れた地域の中で、穏やかにほほえみのある暮らしが出来るよう、日々、より良いケアが出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービス事業所として、地域と交流しながら、利用者が住み慣れた地域で、穏やかに暮らせるよう支援している。隣接する3つの施設が合同でイベントを行ったり、認知症カフェで利用者同士の交流機会も多い。また、自治会と防災協定を締結し、災害時の協力体制もできている。管理者は、医療法人の強みを活かし、医療・看護と介護を緊密に連携させながら、職員の研修受講も支援し、スキルとキャリアアップにつなげている。職員は、利用者の自立を支えながら、穏やかに、その人らしい暮らしが送れるよう支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関や職員が見やすい位置に掲示している。理念に基づく取り組みが日々のケアサービスに活かされているか、ケア会議などで振り返り、職員が理念を共有し、実践に繋げるようにしている。	理念の中には、利用者本位を含め、対人援助の基本を掲げ、実践経過は、職員会議で検証している。利用者の持てる機能を活かしながら自立を支え、その人らしい生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会と、防災協定を締結して、非常時には相互に支え合う関係として位置付け、地域の防災訓練にも参加している。地域の小学生との交流や、公民館行事、地域のお祭り、高齢者対象の運動会などにも参加し、地域の一員としての交流を継続している。	自治会と防災協定を結び、相互に協力体制を整え、地域の防災訓練にも参加している。地域のイベントにも参加し、認知症カフェでは住民と交流を行っている。また、地域の小学生との交流やボランティアも日常的に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生の見学を受け入れ、利用者様との交流を通して、認知症の人への理解や、支援の方法を説明している。また、認知症カフェを隣接する3施設で年3回開催し、地域の方へも、認知症の理解をして頂く活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、隣接の小規模多機能と合同で運営推進会議を開催している。会議では、サービス活動報告書をもとに、活動内容を説明している。会議では、地域の神社の祭礼や、公民館祭りで作品掲示等情報を頂いている。	運営推進会議では、サービスの実際や取り組み内容を報告し、意見交換をしている。また、今年は台風による被害状況も報告し、今後の防災対策や感染症対策についても話し合い、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症カフェの開催時には、地域包括支援センターからの助言や協力をして頂いている。また、市の多職種連携研修会などにも参加し、サービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう努めている。	市の介護保険課、地域包括支援センターとは困難事例について助言を得たり、認知症カフェの開設時にも協力を得ている。市主催の会議や研修会には積極的に参加し、有益な情報の把握に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年次計画の中で、職員は身体拘束について定期的に研修する機会を持ち、正しく理解できるように努めている。3ヶ月に1回、身体拘束の適正化のための対策検討委員会を設け、玄関の施錠を含め、施設における身体拘束について検討し、その結果について、職員に周知徹底を図っている。	法人内に、身体拘束対策検討委員会を設置している。対処方針や適正化に向けた会議を定期に開催し、その結果を、職員研修会で共有している。緊急止むを得ない場合は、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年次計画の中で、職員は高齢者虐待について定期的に研修する機会を持ち、正しく理解できるように努めている。職員は利用者の心身の状態・ケアの状況に常に注意を払い、虐待防止に努めている		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年次計画の中で、職員は権利擁護に関する制度について定期的に学ぶ機会を持ち、職員が制度を正しく理解出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、利用者様・ご家族に契約内容やケアに関する事業所の理念や取り組みを説明し、理解して頂くように努めている。改定の際には、事前に家族に改定内容を説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(年3回)、合同家族意見交流会(年1回)を開催し、ご家族の不安や要望をお聞きする機会を設けている。また、ご家族からの意見や要望が、面会時など気軽に職員に伝えられる雰囲気づくりに努めている。	家族の意見・要望は、訪問時や家族会で聞いている。家族の意見や要望には、丁寧に耳を傾けて説明し、理解を得ている。ホーム便りには、利用者の普段の暮らしぶりや行事の写真に、メッセージを添え、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や、日々の勤務の中で、職員からの意見や提案が出しやすい環境を作り、改善につなげるように努めている。代表者も、職員と個別に面談の機会を設けるなどして、職員の意見や提案を、運営に反映させている。	代表者が出席する会議や個別面談で、職員からの意見・提案を聞いている。事例検討や外部研修の伝達を行い、勤務体制についても話し合いながら、職員が働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はケア会議にも参加し、現場に顔を出したり、職員に個別に対応できるなど、施設運営に反映できるように努めている。また、キャリアアップのための研修参加を促すなど、職員に働きかけ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自、業務時間内に、法人内外の研修に参加する機会を設けられている。職員は、お互いにスキルアップ出来るように、職員会議で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携研修や、グループホーム交流会などに参加して、経験や、職種に応じた事例検討・技術・法令などを勉強する機会を持ち、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が新しい環境に早く馴染めるように、ご家族・関係者などから情報収集に努めるとともに、事前面談時など、ご本人の言葉に出せない思いも引き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時などに、ご本人・ご家族の困っていること、入所に際しての不安なこと・要望を傾聴し、必要な支援が提案できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、新しい環境に早く馴染まれる様に短期ケアプランを作成し、利用者様・ご家族の思いを取り入れた段階的な支援をしていく様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事・掃除・洗濯物片付けなど利用者様が出来ることは役割分担して手伝って頂いている。また、季節の行事や、地域の習わしなどを利用者様に教えて頂くなど、暮らしを支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、家族会・運営推進会議への参加や、かかりつけ医への受診などの協力をして頂いている。家族会では、外出支援をして頂き、職員とも交流を持ち共に利用者様を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や、友人などの面会があれば、居室でゆっくりした時間を過ごして頂いている。ご家族とは、受診、美容院、外食など馴染みの場所に出掛けて頂けるよう支援している。また、ご家族の協力を得て友人との外食にも出かける関係も支援している。	家族や知人の面会時には、ゆっくり過ごせるように配慮している。馴染みの場所へは、職員、または、家族が連れ出している。併施設との合同イベントや認知症カフェでも、新たな馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性については、職員同士申し送りや、記録などで情報を共有している。食事や、レク、くつろぎの時間など、利用者様一人ひとりが楽しく過ごせる様配慮し、支え合う関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローできるよう関係者との連携を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者様一人ひとりの会話や、言葉から、利用者様の思いや訴えを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合は、短い言葉やジェスチャーで内容を伝え、その表情や、仕草などから思いを汲み取るよう努め、職員同士気づきを共有し、利用者本位のケアに努めている。	利用者との会話や、問いかけに対する反応から思いを把握し、困難な人は、表情や仕草から汲み取っている。新たな気づきや、職員の思い込みや見落としがないか話し合い、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前のご家族・前利用施設・担当ケアマネなどからの情報収集に努め、サービス開始後は、利用者様、ご家族との会話の中からも、利用者様のこれまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、介護記録・排泄チェック表などの記録を活用し、利用者様一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握していくよう努めている。利用者様の出来る事にも視点を向けたケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の思い、要望などは、日常の会話や面会時などにお聞きして、本人がより良く生活できるための介護計画作成につなげている。また、医療関係者からは、利用者様の心身状態に合わせた助言をとりいれながら、ケア会議で、随時介護計画を見直している。	介護計画は、本人・家族の意向を確認し、医療関係者の助言を参考に、ケア会議で検討して作成している。利用者の心身の状態を安定させ、よりよい生活が送れるように、介護計画作りを行い、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートなどを活用して、日々の利用者様の心身状態・ケアでの気づきなどの情報を職員間で共有し、ケアの工夫や実践につなげ、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況に応じて、個別の物品の購入を支援したり、水分摂取、食事摂取が少ない利用者様への個別の対応など、その時々柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の地区センターや、文化ホールなどの行事に出かけたり、利用者様の作品を展示する機会を設けて頂いたりしている、地域資源を活用して、利用者様が豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。受診時には、かかりつけ医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。定期的に医師による訪問診療があり、連携体制が築かれている。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望で選択し、専門科への受診は家族が対応している。協力医は月2回の往診があり、併設施設の看護師と連携が計られ、安心な医療体制が確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の心身状態の変化を早い段階で法人内の看護師に伝えて相談することが出来、個々の利用者が早期に適切な受診や看護を受けることができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは日頃より相談員との関係づくりをしている。入退院時にはご家族の了解を得て、医療機関との情報交換や連携に努め、安心して治療でき、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時には、重度化や終末期に向けた思いをお聞きして、看取りの指針を説明し納得して頂いている。重度化した場合は、早い段階でご家族や医療関係者と共に施設で出来ることを十分に話し合っている。終末期については、医師と相談し、家族の希望に添えるようチームで支援している。	重度化・終末期の方針があり、契約時に同意を得ている。利用者の状態変化があった場合、段階的に家族と医師を交えて話し合い、方針を共有している。終末期の支援体制があり、チームで看取りの実績を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、定期的に消防署の救命救急講習に参加する機会がある。また、ケア会議において定期的に緊急時の救命救急方法などを勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接した3施設とは、合同で非常時の緊急連絡体制、救助体制、避難経路をマニュアル化しており水害時の合同避難訓練も行っている。自治会と防災協定を締結しており、防災会議や地域の防災訓練にも参加し、非常時の協力体制を築いている。	災害訓練は3施設合同のマニュアルを作成し、火災や夜間も想定して実施している。訓練には、地域住民の参加も得て、実際に公民館まで車椅子を使った移動を行っている。自治会とは防災協定を結び、災害時における協力体制を築いている。	直近の台風により、ライフラインの障害が発生している。季節・時間帯にも備えた対応策の見直しと、より充実に向けて検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修などを通して、職員はプライバシー保護について定期的に勉強している。常に利用者様の誇りやプライバシーを損ねないよう、ホワイトボードや、ジェスチャーなども用いてさりげない声掛けやケアに努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。利用者の言葉を否定することなく、傾聴を心掛け、常に分かりやすい言葉で優しく語りかけ、ジェスチャーやカードを利用し、思いに寄り添うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の中で利用者様の思いを傾聴するように努め、言葉以外にも表情・しぐさなどからも思いや希望に気付くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、さりげない声掛けを行いながら、一人ひとりのペースを大切にし、心身に負担なくその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力して頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。外出や行事の際には、お化粧品や、マニキュアなど楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・台拭き・食器洗いなど、利用者様一人ひとりが出来る事を毎日手伝って頂いている。月毎の希望献立の日や、お誕生日などには、利用者様に好みをお聞きしながら、献立を考えたり、おやつ作りを楽しむなど食事を楽しむことが出来るよう支援している。	利用者は、持てる力を発揮しながら、食事の準備や片づけ等に関わっている。献立には、利用者の希望を取り入れたり、咀嚼力に合わせた形態で誤嚥を予防しながら、食を楽しめるよう工夫している。おやつ作りも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療関係者や管理栄養士などと連携を図り、食事量・水分摂取量・体重の増減など利用者一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自立度に応じて、義歯の脱着・洗浄・口腔内の衛生管理等のケアも行っている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。自立度や心身の状態に配慮しながらトイレの声掛け・誘導を行い、排泄の失敗を減らし、自信を持つよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導で失敗を減らし、自信につなげている。トイレでの排泄を基本としているが、夜間は、安全面に配慮し、利用者の状態に合うパッドを選択したり、希望者のみ、ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や、体を使うレクなどに参加して頂くよう働きかけをしている。スムーズな排便のリズムができるよう、水分摂取の声掛けや、朝に牛乳を提供するな個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態に配慮しながら、一人ひとりのお好みの順序・湯温・湯量でゆっくり個々に入浴して頂けるようにしている。状態に応じて足浴・清拭・機械浴などの個々に沿った支援をしている。	入浴日は、通院や外出予定を調整し、柔軟に変更している。ヒノキの浴槽と機械浴があり、利用者一人ひとりの希望や、在宅時の習慣に合わせて、ゆったりと、心地よい入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、日中は出来る限り活動的に過ごして頂くよう支援している。一人ひとりの心身状態に応じて、入浴後・食事後・外出後の休息を声掛けするなど、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明書については、処方箋ファイル作成して情報の共有をしている。薬の変更・追加・臨時薬などについては、その都度申し送り・記録し周知徹底を図っている。与薬の担当者は、服薬まで毎回確認し記録にチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・歌レク・裁縫・ちぎり絵など、一人ひとりに合わせた役割・楽しみごとに参加して頂いている。また、季節の行事や誕生会に、ビールや梅酒などを提供し気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に配慮しながら、近隣の散歩やドライブなど日常的に支援に努めている。外食は家族会としてご家族にも外出支援を協力して頂いている。個別に、喫茶モーニング・認知症カフェ・初詣などを楽しんで頂くなどの支援をしている。	周辺の散歩、買い物や喫茶店、認知症カフェ、公民館行事など、出来るだけ多く外に出かけられるよう支援している。個別の外出には、職員配置を調整したり、外食の希望者には、家族に同行を依頼して出掛けている。	

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて支援している。個別外出時には、思い思いの品を購入されたりしている。個人の預り金については、ご家族に月に1回は使途を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中はがきや年賀状など、季節のお便りは自筆の絵手紙で出して頂くなどの支援をしている。また、携帯電話の使用や、家族や知人との電話の取次ぎも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、カレンダーの飾りや、ちぎり絵、塗り絵などの季節感のある作品を利用者様と共に月毎に作成し掲示している。利用者様は、日中はソファーや食席など思い思いの場所でゆったりとくつろいで過ごして頂いている。食事中などは、穏やかな音楽を流すなど居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居間は、ユニット間の仕切りを必要に応じて開放し、レクリエーションを合同で行うことができる。壁には、月替わりで季節感のある塗り絵やちぎり絵、干支の共同作品等を掲示している。利用者は、大型テレビの前のソファーや食卓で、ゆったりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で、ソファーや食席で談笑されたり、新聞や広告を読まれたり、好きな場所に移動して日向ぼっこを楽しまれたり、その人に合った居場所を作れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様の安全面をご家族と相談しながら、テーブル・ソファー・TV・筆筒など思い思いの家具を配置して、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。また、利用者様手作りの作品や写真なども見やすく飾って頂いている。	居室には、洗面台とクローゼットがあり、整理整頓で安全な空間を確保している。馴染みの家具や、使い慣れた小物を持ち込み、花や手作り作品、家族の写真を好みに飾り、居心地良く過ごせる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの心身状態に常に気を配り、不安や混乱が生じないような環境を配慮し、利用者様の動線に転倒などのリスクがないよう安全で自立した生活が出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風 (西)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番地		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(西)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を全職員が見られるように掲示して 日々のサービスに活かす為、ケア会議などで振り返り、確認し合い実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生との交流会 市内高齢者対象の運動会、かたくりカフェへの参加、自治会の避難訓練 こども神輿など地域住民の方と積極的に交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3施設合同の夏祭りや認知症カフェなど通じて 地域の方に認知症の方達と触れ合う場を提供し理解を深めて頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回小規模多機能と合同で会議を開催している。会議では、活動状況を報告し地域の行事や講演などの誘い助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、地域包括職員には、運営推進会議に毎回参加して頂き、施設の取り組みを報告し理解、把握をして頂き ご意見を頂く等協力関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議時に、配布資料にて全職員が正しく理解を深められる研修の場を設けている。また、日々の申し送り等でケアを振り返り、次に繋がるような話し合いや改善や工夫を行い、見守りを行う中で身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月ごとに身体的拘束等適正委員会を行い、現状と改善点など検討し職員全体へ適正化に関する指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修の発表により、職員は勉強し理解を深めている。成年後見制度が必要と思われる方への活用を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ゆっくりと分かりやすく具体例を挙げ、理解を図っている。改定時には、内容を説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、お便りで近況を報告しコミュニケーションを密にすることにより、意見や要望を気軽に職員に伝えられる関係作りにつとめている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議に運営者も参加しており、職員の意見に耳を傾け、時にはアドバイスを頂いている。日常の勤務の中で、職員が気になることがあれば、個別にて話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、今まで培ってきた施設運営を反映できるよう、現場に顔を出したり、情報収集を行い、職員に個別に対応できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、勤務時間内に法人内外の研修に参加する機会が設けられている。また、互いのスキルアップの為、ケア会議内で研修報告を行い、職員全員が学べる場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会に参加し活動、問題点など話し合い情報交換しサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活により早く馴染んで頂けるよう、家族、関連機関等から情報収集に努め、日々のコミュニケーションからも安心感を与え、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、ゆっくりお話しをする時間を設け、見学しながら本人やご家族様の不安等を傾聴することに心がけている。観察、会話等から必要なサービスを見極め、こちらからも現状をお聞きしたり、最善のサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の思いを再確認し、まずは生活に慣れて頂くことからケアプランを短期間の目標設定として作成導入し、必要に応じて段階的に支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事や洗濯物を干す畳む等できることを役割分担し、手伝って頂いている。利用者様より、四季折々の行事や地域の習わし等教えて頂き、おはぎ作りや五平餅作りを共に行い、共有し支え合う関係作りができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、日頃から面会時の会話を大切にしており、運営推進会議への参加や通院、美容院への付き添いをお願いすることも多い。また、外出や外泊に行きやすい関係作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた美容院へ行かれたり、ご家族様との外出を楽しまれたり、利用者様がご家族やご兄弟へ宛てた葉書(年賀状含む)をお送りしたりと、住み慣れた場所や馴染みの人との関係を途切れさせないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等、気の合った方同士を配置し、また、職員も間へ入り誰もが孤立することなく、多くの会話を楽しみ関わりを持てるよう工夫をしている。役割分担も皆様が気持ちよく同じだけのお手伝いをして頂けるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動にて契約終了後も、お見舞い等必要に応じて行い、本人とご家族様に経過をフォローできるように、関係者との連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様との会話や表情の変化から希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、表情や仕草の観察をより重点的に行い、ご本人様の気持ちの汲み取りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から、これまでの生活歴や趣味、得意だったことを情報収集し、また、ご家族様からも生活の様子や内面等お聞きし、レクリエーションに取り入れたりして、有する力を発揮しながら自分らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握理解し、基本とした上で出来る事への参加を促し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の要望や気持ちをお聞きし、反映するためにケア会議で職員同士が意見交換を行い、ケアプランの作成に努めている。利用者様の状態によっては、その後のケアプランの見直し、検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、食事、排泄等の身体的状況、本人の言葉や職員の気づき等を記載し、職員間で共有しケアプランの見直しに活かしている。また、特変があった場合には、個々に別の記録用紙を用意し、職員間で共有又は医療連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の状況に応じて、受診が必要な方の支援、個別の必要物品の検討や購入、ミキサー食への変更、食事の席は利用者様の状況に応じて席替えなども検討するなど その時々柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館祭りや作品展、認知症カフェ、高齢者対象運動会など個別支援で出かける等、利用者様が地域で楽しみのある豊かな生活を営めるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。かかりつけ医と連携を図り、必要な医療を受けられるよう支援している。また、定期的に歯科訪問診療に来て頂いたり、法人の協力医とも連携体制を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により、日頃の健康管理や医療面の相談、助言を頂き、支援に繋げている。状態に変化がある時は、看護師に報告し適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは、日頃より関係を取っており、入退院時には、病院の生活相談員や担当看護師と連携をとり、円滑に日常生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会の席で、終末期に向けたご家族様の思いをお聞きし、施設で出来ることの説明と質疑応答を行っている。重度化した場合には、ご家族様や医療関係者と施設で出来ることを密に話し合い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や消防署の救命救急講習に定期的に参加し、ケア会議で緊急時の対応法について学びを深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、消防署の協力を得て、通報、誘導、消火器の使用法等の訓練を行っている。地域の防災訓練に代表の職員と利用者様で参加し、実際に施設から公民館までの避難経路を歩き、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修にて、学びを深め再確認し、利用者様の気持ちに寄り添い、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の外出や誕生日会等、少しの選択枠ではあるが、利用者様の要望にできるだけ対応するように努めている。また、日常生活からコミュニケーションを密に図り、広告を見ながら会話を楽しみ、要望を言いやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、共に身体を動かしたり、時間や空間の共有を持てるよう、支援に取り組んでいる。自室に戻られ、新聞を読まれたりテレビを観られたり、静臥される等それぞれの生活リズムを理解し、見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、ご本人様が洋服を選び、宝飾品お化粧品等々のおしゃれを楽しんで頂けるよう支援をしている。希望のない方は、職員と一緒に考え支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや配膳、食後の片付けを職員と共に手伝って下さり、食事中は会話を楽しみながら召し上がって頂けるように支援をしている。また、月に一度、希望献立の日を設け食事を楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半年ごと栄養スクリーニングし、個々の栄養状態のリスクの確認を行っている。食事量、水分摂取量、体重増減等常に注意し、食事量の調節をしたり、食べやすい形態にしたり好みの飲料の提供など必要に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや自立度に応じて支援している。歯磨きによる口腔ケアが困難な場合には、口腔ウェットティッシュなどを用いて清潔保持に努めている。また、必要とする方には、定期的に訪問歯科の往診にて口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各々の排泄リズムの把握に努めている。時間で声掛け誘導を行い、トイレにて排泄できるよう見守り支援している。夜間も心身状態に配慮しながら見守り、声掛けをし、排泄の失敗を減らし、自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取(牛乳・お茶・ヤクルト)の提供を行い、こまめな水分補給してに努めている。毎朝の体操や体を使ったレクへの参加を促し、スムーズな排便のリズムができるよう支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調、各々の心身状態に配慮をしながら、好みの湯温で入浴して頂けるように順番を考え、一対一の介助でゆっくりと入浴して頂けるよう支援をしている。それ以外にも希望があれば柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加して頂けるよう声掛けをし、昼夜逆転せず夜間良眠できるよう努めている。不眠時に居室で過ごされている方には、こまめに訪室し安全確認に努めている。また、温かい飲み物の提供や傾聴など状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、職員が内容を理解し与薬確認をしている。薬の変更や臨時薬については、その都度記録に残し、申し送り表の記入も徹底して行い、全職員に周知すると共に、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や日々の観察から、力を発揮して頂けるよう家事手伝いをお願いしている。また、喫茶店、外食、外出、日常の散歩、季節の行事等の計画を立て、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日など近隣の散歩や買い物 外食(モーニングやお茶)、ドライブ等ご本人様の希望に沿えるよう支援に努めている。また、家族会にて一緒に外出や食事の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望や力に応じて、安心や満足に向けて所持金を持って頂けるようご家族様と相談し、支援をしている。事務所が金銭管理をしているが、外出時にはご本人様のお金を所持し、本人にお支払いして頂けるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話への対応や親族宛の葉書(年賀状含む)の郵送等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、利用者様に四季の作品を作成して頂いたり、カレンダーに四季の折り紙を貼り、掲示したものを鑑賞している。また、食事を作る音や匂い希望献立でも季節を感じて頂けるメニューを考案し、家庭的雰囲気味わって頂けるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席に配慮し、快くくつろげる環境作りをしている。また、畳のスペースでは、利用者様同士が日向ぼっこをしながら談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、思い出の品等を本人やご家族様と相談しながら持ち込み、配置している。危険が伴う場合には、その都度検討し、居心地良く過ごせるよう支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全な環境で生活が送れるよう、個人の持ち物の配置には配慮し、利用者様ご本人にも分って頂けるようにビニールテープ等印をつけ、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		